

平成23年度～24年度日米アホウドリ衛星追跡調査について（案）

今後の衛星追跡調査の計画

平成 23 年度

平成22年度の追跡調査計画：アホウドリ幼鳥の行動については、平成20年5月に米国魚類野生生物局と山階鳥類研究所により実施された、鳥島及び聳島の巣立ちヒナの追跡調査により初めて一部が明らかにされたものであり、平成21年2月に開催された日米渡り鳥等保護条約会議において、米国魚類野生生物局との間で、今後数年は対象を巣立ちヒナとして調査の継続を図る事が合意されている。これを受けて平成21、22年度と、巣立ちヒナの衛星追跡調査を行ってきたが、平成23年度についても、鳥島・聳島の巣立ちヒナの追跡調査を日米共同調査と位置付け、平成21、22年度にハーネス法で送信機を装着した個体、および平成23年5月送信機を装着した個体について電波受信が途絶えるまで引き続きデータを受信しているところであり、今後、衛星追跡結果を解析する。

なお、平成24年度も、鳥島・聳島の巣立ちヒナを対象に、発信器を取り付けて、人工衛星による行動追跡を実施する。